

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200230		
法人名	有限会社おおぎもと		
事業所名	グループホームJO・さざんか 第2		
所在地	豊田市大蔵町花立14番地7		
自己評価作成日	令和 2年7月29日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvcCd=2376200230-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県道沿いにあり、山と田んぼに囲まれた自然豊かな環境下にあります。利用者様の個々に合わせて、できることを見つけ、洗濯物を干したり、畳んだり、紙ちぎりや裁縫など無理なく作業をして頂いています。リハビリにもつながっており、身体機能の維持や役割があるという思いが、認知機能の悪化予防につながっています。また、こども園や小学校、老人クラブの来訪があり、地域のつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山間に位置するホームは窓から季節が移り変わる様子を感じることができ、自然豊かな環境の中、利用者はのんびりと穏やかに暮らしている。利用者・職員共に地元の出身者が多く、地域との繋がりを大切にしている。園児や小学生との交流が盛んで、お互いの行事に参加したり、作品交換したりと世代を超えた良い関係が築いてきた。
勤務歴が長い職員が多く、利用者との付き合いが長くなる中で信頼関係が生まれ、様々な意向を汲み取りながら利用者へ寄り添った支援をして、家族にも安心してもらえるようこまめに連絡を取っている。同法人のデイサービスが近隣にあり、レクリエーション活動や行事を合同で開催して、利用者の日常に良い刺激を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[恕]の精神を基本とし、毎朝業務前に管理者と職員は、基本理念を唱和、共有し、業務に入っている。	仏教用語であるホーム理念は職員に浸透しており、意味を理解して相手を思いやり、相手の身になって考えながら支援している。利用者の笑顔を引き出すために、職員も笑顔で働く職場づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主は、地域の一員として当地域に長く暮らしている。また、従業員も利用者も当地域の者が大部分なことから、地域に浮いてしまう事無く、溶け込んで暮らしている。	こども園や小学校との交流を継続している。コロナ感染症予防のため、一緒に楽しい時間を過ごすことはできないが、玄関で作品を交換することはできた。地域高齢者クラブからはタオルや洗剤の差し入れがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や当地域の催しなどの出席の機会などから地域の方に溶け込むように働きかけ、理解して頂けるように支援させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議からの助言や意見を頂き、それらを業務に生かせるように努めている。会議内で、活性化の為、認知症やグループホームについての豆知識等研修内容を盛り込んでいる。	出席者に一言ずつ発言をしてもらう機会を設け、場が和んだ状態で意見交換を行っている。同法人のホームと合同で、家族、地域、行政の参加を得て開催してきたが、現在は感染予防のため開催を見送っている。	今年度は3回の開催に留まった。コロナ感染症予防のため顔を合わせての会議の開催は困難でも、行政の指針に沿って文書での情報共有など工夫して開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段から市との必要以外のやり取りはないが、介護相談員の受け入れを通して連携を行っている。	市が主催する研修やグループホーム連絡協議会に参加している。地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホームを理解して、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の方に了承を得ながら、安全上やむを得ず身体拘束をさせていただく事もあるが、見守りを基本とし、極力拘束をしない介護を心掛けている。	身体拘束に関する研修を定期的に行っており、身体拘束をしないケアの実践を職員に意識づけている。現在、安全確保のため夜間のみミトンを使用している事例があり、書面をもって家族の同意を得て、手順を踏んだ手続きにより実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	月1回ミーティング時「ストップ・ザ・虐待」の研修を入れ、認識を高めている。虐待に至るスタッフのストレスや疲労、日常の心身の状態にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族と話し合い、成年後見制度を利用することもある。社会資源を十分に利用者様に生かすことができる様に、常に学ぶように心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項等、説明し、利用者様やご家族様の不安や疑問をお聞きし、理解や納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で御家族の出席や普段の来訪の折、日常においても意見を頂くことができる様に門戸を開いておくという努力をしている。	家族の面会時にはお茶を出し、日常の様子を伝えながら意見や要望を聞いている。現在はコロナ感染症予防のため面会に制限はあるが、希望があれば玄関先で顔を見て安心してもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は常時常駐している。気安さを以て何でも話せる雰囲気を出し意見や提案を聞く努力を反映させて、できることができるようにしている。	管理者が朝礼に参加し、一言発言を取り入れ、発言しやすい環境作りに取り組んでいる。気になることはいつでも伝えられる環境にあり、職員から出された意見は可能な限り実現できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常時常勤していることから、一人一人の介護の実際と力量を把握し、熟知し、スタッフへの指導に当たっている。介護業務を通し学ぶ機会と据え、やりがいや向上につなげられるように指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常時常駐していることから、スタッフ一人ひとりの実際や力量を把握している。法人外研修は、会場が遠方にて参加は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は少なく、切磋琢磨の機会を多くしたいと思っている。市内など近距離での交流、研修が好ましい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者は常駐していること、またスタッフからの気づきや報告などから、スタッフと相談しながら本人の安心や安寧の気持ち作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の来訪の折など、お家での様子をさりげなく会話の中から掌握するよう努めている。また代表者の知りえているノウハウをできる限り話すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は、介護保険上無理と据えられているが、どのように暮らしていきたいかを感じ取る努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年単位のお付き合いであり、なんでも言い合えるフレンドリーな関係であると思っている。「親しき中にも礼儀あり」の諺を守り、礼節は大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の折、また電話での連絡時など、御家族と連絡を取りながら、利用者様が安心して暮らして頂けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出の際に実家に寄ってみる、隣近所の方を見て話をするなど、お互いに共通の話題がもて話ができる様に、関係作りをしている。	同法人のデイサービスに通う友人と交流したり、家族の支援で自宅に泊まる利用者がいる。自宅が気になる利用者には、職員が付き添って見に行くこともある。洗濯や花を活ける等、習慣の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立してしまわない様に、寂しくない様に、利用者様同士会話ができる関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され家庭に帰られた方も関心を持ち、近所の方に様子をお聞きしたり、本人に会い、元気を喜び合ったりして、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室は、利用者様の暮らしやすいように使用している。本人の希望に出来るだけ沿うように努めている。	毎日言葉を交わし、日常の関わりの中から、その場、その時の思いを聞き取っている。利用者の生活歴や好みを把握し、役割を持ってやりがいを感じながら、希望に沿った生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様は、この辺りの方が多く、スタッフも地域の方が多く、方言が飛び交い安心の間柄である。生活歴はスタッフと大差ないので、生活歴も共感できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自由に過ごして頂く様にしている。毎日バイタルサインのチェックを行っている。その方のADLに合った生活が送れるようにと心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング時、細かいケアプランを共有し、意見を出し合い、その方が元気に安心して頂く様に努めている。	夜間の介護記録の書き方を見直し、誰が見ても内容が伝わるよう改善した。利用者の様子を細かく観察し、毎月家族に書面を送付して家族意見を聞き取り、支援内容を定期的に見直しをしている。	サービス担当者会議を開催し、計画立案時から職員や家族が携わり、支援に反映されるような仕組み作りが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録様式に沿って記録している。勤務者は記録を読み、状態の把握に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の認知症の行動障害に合うように工夫し、グッズを作成し、スタッフ側の勉強にもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア様、カラオケ、踊り、学校、保育園など、多くの方の協力で毎日変化があり、豊かな暮らしとなっているのではないかと考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院、開業医など、その方のかかりつけ医を希望通りの受診のお手伝いを行っている。	ホーム協力医が月1回往診しており、その他の専門科の受診は職員が同行して支援している。緊急時は地域の総合病院を受診している。看護師資格のある職員が多いことも安心材料となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐や准看護師のスタッフもあり、健康状態を常に把握し、見極め、早めの受診、看護を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と相談しながら、その方のご家族が大きく不安にならない様に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と十分に話し合いを行い、事業所内で出来ることはこれ以上無いかと模索しながら、その方が安全、安心して頂けるように関わっている。	看取りは原則行わないことを入居時に説明している。利用者が重度化した場合は、家族の状況を考慮してその後の方針を決めている。ホームでの対応が可能な場合に限り、医師や看護師資格のある職員との連携により看取りの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	労働時間の関係上、また非常勤者で勤務することが多いので、中々スキルアップや周知は難しい。代表者、管理者の常駐から、その判断をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練において避難訓練も行っている。消防署から年1回の指導も継続している。土砂災害マニュアルを作成し、災害対策の確認を行っている。	毎月19日に火災や地震、土砂災害などの様々な災害を想定した訓練を行っている。実際に行った避難誘導の課題を話し合い、検討する機会を設けている。非常食は3日分を外付け倉庫で管理している。	災害時のリスク分散を考慮し、備蓄品の管理場所、内容を再度検討することを望みたい。非常食の入れ替え時には、利用者に試食してもらうことも必要であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字かお名前をお呼びすること、「ちゃん」呼びはしない等、その方の尊厳や人格は、重視している。	入浴介助や排泄介助時には、羞恥心に十分配慮して支援している。利用者への声掛けの仕方など、職員が気づかず行ってしまった言動には、管理者がその場で注意して意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の承諾を得る、納得して頂く、ご自分で決めて頂く様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の規則正しい生活に沿いながら、希望される場合は、その方のペースに合わせて頂く。その方が元気に安心して暮らして頂くことを基本に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の希望に沿い、散髪を行っている。受診時や外出時は、身だしなみに気を付けている。高齢者になってもお洒落心は大切と考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の個性を尊重した食事を提供している。できるだけ準備や片付けを一緒にして頂く。	配食材業者を活用し、職員が調理して提供している。利用者は、食器拭きや下ごしらえなど、できる範囲で活躍している。麺の日、五平餅の日などの食事レクを取り入れ、楽しい食事の機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食の方、お粥など、その方に応じて食事の形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方、歯磨きの方など、その方に合った方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に応じた方法で、排泄ケアを行っている。	見守りや時間での誘導、様子を見ての声掛けなど、一人ひとりに合わせた支援で自立度の維持を図っている。夜間は安全面を考慮して、オムツ対応をすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの食材、特に野菜を多く提供している。排泄記録をつけ、排泄状況を管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務の都合上、個人の希望を叶えることは、難しい。安全上の問題から夜間帯の入浴は行っていない。	週2～3回、1日3名を目安に午後から入浴している。入浴剤を入れたり柚子湯などの季節湯と楽しい時間となるよう工夫し、出がらしのお茶の葉を使ったお茶風呂では、消臭や美肌効果が得られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツや枕カバーの洗濯を定期的に行い、気持ちよく睡眠ができる様に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、確実に服用できるように、分包、分配し管理している。また薬の効能書は、ファイリングし、いつでも見られるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	娯楽、散歩、ドライブ等行いながら、生活に変化を持たせるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に出来る限り沿うよう関わっている。	気候の良い時は近隣の散歩に出掛けたり、花見や紅葉狩りなど、季節を感じる企画外出も行って来た。外出が困難な現況下、ウッドデッキでのお茶会など、外気に触れる機会を設けて気分転換を図っている。自粛している近隣の散歩は復活させる意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は管理して頂く。管理できない方は、御家族の管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に合わせ、その方に合った方法で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整然とされ、障害物がないように気を配っている。清潔には特に気を配り、清掃や空気清浄機の設置をしている。	玄関は利用者の作った折り紙などの作品が飾られ、和やかな雰囲気になっている。日中はリビングで過ごすことが多く、利用者の特性や相性に合わせて席の配置を決めている。利用者の好きな音楽を流し、職員と一緒に口ずさみながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の様子を見ながら、楽しく毎日を過ごして頂くように、ご本人の納得を得て、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からご本人が使用していた物を持ち込み、使用して頂く。ベットや家具の配置など、その方が暮らしやすい空間を提供している。	タンス・鏡台など、愛着のあるものを持ち込み、家族写真やぬいぐるみを置き、落ち着いた居室作りに努めている。掃除ができる人は自分で行い、できないところを職員が手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ることはして頂き、御礼を言って頂く喜び、張り合いなど、生きているという喜びを思ってもらえるように関わっている。		